

【アドバイザーパートナー企業一覧】（22社／2024年2月時点）

MS&AD あいおいニッセイ同和損保

あおぞら銀行

ABeam Consulting®

KEL
KANEMATSU ELECTRONICS LTD.

KYOCERA

KOTORA

木と生きる幸福
住友林業

SEVEN&I HOLDINGS

SOMPO ホールディングス

一生涯のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group

Deloitte.
デロイト トーマツ

JR
JR東海

東京海上日動

TOKYO GAS

FUJITA
Daiwa House Group®

FUJITSU

Marubeni

MIZUHO

三井住友信託銀行
SUMITOMO MITSUBI TRUST BANK

MUFG
三菱UFJ信託銀行

健康にアイデアを
meiji

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | 株式会社あおぞら銀行 | アビームコンサルティング株式会社 | 兼松エレクトロニクス株式会社
京セラ株式会社 | 株式会社コトラ | 住友林業株式会社 | 株式会社セブン&アイ・ホールディングス
SOMPOホールディングス株式会社 | 第一生命保険株式会社 | デロイト トーマツ グループ | 東海旅客鉄道株式会社
東京海上日動火災保険株式会社 | 東京ガス株式会社 | 株式会社フジタ | 富士通株式会社 | 丸紅株式会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ | 三井住友信託銀行株式会社 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 株式会社明治 ほか

プロフェッショナル・スタディーズWebサイトも
併せてご利用ください。

プロフェッショナル・スタディーズ Webサイト

<https://www.sophia-professionalstudies.jp>



講座はWebサイトからお申し込みいただけます。

TOP

講座紹介

ご希望の講座をタップまたはクリック（講座予約サイトへリンクします）

※企業会員の方は企業担当者を通じてお申し込みください。



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

問い合わせ先

プロフェッショナル・スタディーズ事務局

TEL: 03-3238-3552

E-MAIL: 企業会員の方 prostudies-co@sophia.ac.jp

個人会員の方 web_kookai-co@sophia.ac.jp

※ 講座内容や担当講師、開講時間等は変更の可能性があります。

2024年2月発行

上智大学
社会人プログラム
2024



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

Sophia — Bringing the World Together

SOPHIA PROFESSIONAL STUDIES

教養を实践智へ ～着想、構想、実装への アプローチ～

多様性ある議論の場に集い、

変革の時代に備えるべき、

マルチステージをデザインする“智力”を探究する

社会人の学びには、多様な目的、さまざまな形態、そして大いなる自由度があると考えます。
例えば、日々の仕事の中にある学び、スキルを高める学び、ツールを駆使するための学びなどが挙げられるでしょう。ただ、それぞれの必要性はもちろんですが、社会で提供されるべき学びの機会には、まだ何かが欠けている気がします。それは、ひとりひとりの人間としての基盤軸を如何に太くしていくのかという本質的な学びの場ではないでしょうか。そしてその学びの場は、人間軸から実践智が生み出されるというプロセスを実感する機会にもなるうかと思えます。

そのような想いから、上智大学では社会に学びの新たな視点を提供したいと考えるに至りました。それは、

- 1.個性を磨き、
- 2.人間軸を太くし、
- 3.着想、構想、実装という、三つの創造的発想の源泉となり、
- 4.実践的機会において独創的役割を果たす

ための智の獲得を目指す学びの場の提供です。これは「教養の深化と昇華による実践智の獲得」を意味するのだと考えます。蓄積する知識ではなく発揮する智慧を創出する教養を獲得し、実践智を生み出すプロセスを学ぶ場は、特にビジネスの一線におられる方々には刺激と興奮の連続となるでしょう。そのためには、日頃探究する機会の少ない題材を用いて、多様なバックグラウンドを持つ仲間と議論を交わす、まさに異質に触れながら異質で議論を交わす、そのような場の形成が求められるのだと思います。このような鍛錬により、自分自身の中でさまざまな智と智の反応が起こり、生み出された新たな着想や先を展望した構想を、多角度的な視座をもとに社会に有意なものとして実装するというフェーズへ昇華していく、そのような実践智の形成が期待されるのではないのでしょうか。独創的な実践智は、スキルの組み合わせでは創出できないと思います。自分自身という人間の軸を太く、そして個性的に磨き上げることが肝要なのです。

上智大学プロフェッショナル・スタディーズでは、多くのアドバイザーパートナー企業のご賛同を得て、扱われる題材、教授方法など、この講座の有り様を産学連携のもとで議論しながら運営しています。社会に、新たな学びの場を創出するという私たちの挑戦でもあります。ぜひご期待の上、ご参加をお待ちしています。



上智大学長 曄道 佳明

日本社会が持つ課題とグローバル社会の変革

グローバル市民・人材像の変化
グローバル×高度情報化社会の到来
個人・組織が学び続ける時代

価値・倫理が変わる時代
信念、理念が問われる時代

国際通用性

変革の時代に
社会が備えるべき“智”を再考

創造性

国際通用性を持つ教養

人間性の陶冶
多様性社会の真の理解
グローバル社会を俯瞰する視野
グローバル・ローカルの双方向視点
歴史と宗教が示唆する世界理解
国際的視点から見た日本の理解と発信
交渉力
など

創造性を発揮する教養

信念、理念、倫理の創出
価値の創造
イノベーションへの着想
課題へのアプローチ法の導出
構想とデザイン
社会展望力
論理的思考、批判的思考
など

OUTLINE

上智大学プロフェッショナル・スタディーズとは

「上智大学プロフェッショナル・スタディーズ」は、実業界と本学が一体となって産学協働の学びの場を創成する新たな試みです。プログラムは、国際通用性と創造性を高める「教養講座」、交渉学、国際会計など、専門性を磨く「スペシャリスト養成講座」、各分野の専門家や著名人により社会展望力を醸成する「スペシャルトーク」という3本の軸で展開します。本学の教員、名誉教授を中心に各講座のコーディネーションを行い、学内外からの講師陣を配置。ビジネススキルの向上とは一線を画し、また単なる学術的な講義の提供でもない、新たな学びの場として、新しい社会、ビジネスの創造に向けた革新的な着想を引き出す工夫を加えた講座を展開します。

教養講座	講座群	スペシャリスト養成講座
1講座全6回 各回90分	▶ 人間の本質と倫理、哲学 ▶ 歴史、宗教に学ぶ世界の俯瞰 ▶ グローバルな視野とローカルの視点 ▶ 良質な社会に向けた責任とアクション ▶ 科学から読み解く社会像 ▶ 交渉のための論理と批判	1講座全8回 各回90分
上智大学ならではの社会の切り取り方で、多様性のある国際社会において信頼を獲得し、同時にイノベーションへの着想や新しい価値の創造を導く6種の講座群を配置。		国際性、社会貢献、コミュニケーション力といった上智大学の強みを反映させ、現代社会の課題に対して、一定の水準に到達できる専門性の高い講座を配置。

教養講座、スペシャリスト養成講座は、春学期・秋学期に分け、平日15:30～17:00、18:30～20:00、土曜日の日中に開講します。
※一部講座は、これらの時間区分によらず開講する場合があります。詳細はWebサイトにてご確認ください。

スペシャルトーク	【2022年度実績】	【2023年度実績】
年間6回開催予定 1講座1回 各回90分	第1回「リスクを取る勇気 ～ダイバーシティとインクルージョン(D&I)を受け入れ、革新的な地球市民へ～」 前在日米国商工会議所会頭 ジェニファー・ロジャーズ 第2回「中国をめぐる内外情勢」 日本オリンピック委員会(JOC)常務理事、前在中国大使 横井 裕 第3回「ESGを取り巻く世界的潮流と投資家の視点」 上智大学特任教授、学校法人上智学院理事 引間 雅史 第4回「揺らぐ経済秩序、グローバルビジネスも転換点へ」 ジェトロ(日本貿易振興機構)理事 小野村 拓志 「ロシア・ウクライナ問題が日本企業に与える影響」 ジェトロ(日本貿易振興機構)海外調査部 主幹(ロシアCIS地域担当) 下社 学 第5回「ビジネスパーソンに求められる教養と読書の意味」 多摩大学社会的投資研究所教授・副所長、一般社団法人100年企業戦略研究所所長 堀内 勉 第6回「世界の難民問題とメディアの役割」 キャスター・ジャーナリスト 長野 智子	第1回「京セラでのこれからのリーダー像」 京セラ株式会社 社長 谷本 秀夫 第2回「ドイツ人から見た日本経済の歩みと現状」 ドイツ日本研究所 所長 フランツ・ヴァルデンベルガー 第3回「Luxury Market Overview」 LVMH Japan 社長 ノルベール・ルレ 第4回「現代アートで世界がわかる」 森美術館館長 片岡 真実 第5回「ビジネスと人権」 HRWジャパン代表 土井 香苗 第6回「量子コンピューティングのビジネス応用」 慶應義塾 塾長 伊藤 公平

会員区分について

上智大学プロフェッショナル・スタディーズは、実業界と本学が一体となって産学協働で学びの場を創生する、従来とは全く異なるかたちの産学連携プロジェクトです。会員区分はアドバイザーパートナー企業会員とスタンダード企業会員の2種があり、会員区分により特典(受講枠など)が異なります。また、企業会員のみならず、各講座ごとに受講料をお支払いいただくことで、個人の方のご受講も可能です(個人会員)。

アドバイザーパートナー

企業にアドバイザーパートナーとして、ご参画をいただいております。アドバイザーパートナー企業の皆様には連絡協議会への参加を通じ、講座への企業側からのニーズやビジネスの最前線で求められる国際通用性などについてご意見を頂くなど、本プログラムの構築にご協力をいただいております。 ※企業一覧はうら表紙

■ 参画・受講会員区分

- ①アドバイザーパートナー企業会員
- ②スタンダード企業会員
※アドバイザーパートナー・スタンダード企業会員特典については、プロフェッショナル・スタディーズ事務局までお問合せください。
- ③個人会員

■ 参画・受講申込方法

- ①アドバイザーパートナー企業会員
- ②スタンダード企業会員
として参画を希望される場合
→プロフェッショナル・スタディーズ事務局
TEL:03-3238-3552
E-MAIL: prostudies-co@sophia.ac.jp
までご連絡ください。
- ③個人会員として受講を希望される場合
→プロフェッショナル・スタディーズのWeb
サイトより申込を受け付けます。申込方法や
開講スケジュール、受講料等、詳細はWeb
サイトにてご確認ください。

アドバイザーボードメンバー紹介

プロフェッショナル・スタディーズでは、アドバイザーボードを設置し、
以下5名のメンバーに本プログラムの構築・運営に参画いただき、
本学と産業界との連携にもご尽力いただいております。

上智大学特任教授
野村アセットマネジメント株式会社 取締役会議長
カリフォルニア大学バークレー校ハースビジネススクール 理事
議長 山本 誠一郎
1985年慶應義塾大学経済学部卒業後、安田信託銀行(現みずほ信託銀行)に入社。1999年に米サンフォードCバーンスタイン社に入社。2012年から2019年までアライアンス・バーンスタイン社日本法人の代表取締役社長、会長、本社パートナーを歴任。2019年にY-Labsを創業、次世代支援活動に従事。2021年より野村アセットマネジメント社取締役会議長に就任。カリフォルニア大学バークレー校経営大学院卒(MBA)。

前ノバルティスファーマ株式会社 取締役会長
鳥居 正男
1975年上智大学国際部経営学修士課程修了。1992年ハーバードビジネススクールAMP修了。1971年日本ロシュ入社。1983年から1987年までアメリカとスイスの Hoffman・ラ・ロシュ社に外向。1993年 ローヌ・ブーランローラー株式会社代表取締役社長。1995年 シェリング・プラウ株式会社代表取締役社長。2011年ペーリンガー・インゲルハイムジャパン株式会社代表取締役社長、2011年エスエス製薬株式会社代表取締役社長兼務。2016年ノバルティスホールディングジャパン株式会社代表取締役社長。2020年よりノバルティスファーマ株式会社取締役会長。2021年8月退任。上智大学ソフィア会会長、上智大学評議員。

上智大学特任教授
Startup Genome Japan株式会社 代表取締役社長
西口 尚宏
上智大学経済学部卒。ノースウエスタン大学ケロッグ経営大学院卒(MBA)。世界銀行グループワシントンDC本部などで計8年米国勤務。外資系コンサル会社パートナー、産業革新機構執行役員等を経て現職。イノベーション・マネジメントでスウェーデン国立研究所(RISE)認定のプロフェッショナル資格を持つ唯一の日本人、内閣府ムーンショットアンバサダーなど政府委員会委員を歴任する等、産官学にまたがる幅広いグローバルネットワークを有する。

一般社団法人アジア・ソサエティ・ジャパン 事務局長
日高 佐和子
2018年9月に新たに設立されたアジア・ソサエティ・ジャパンの初代事務局長に就任。外資系金融機関で25年以上にわたりスタートアップ、マーケティング、コーポレートサービス部門をリードしてきた経験を持ち、組織の成長のために強固な業務基盤を構築した経験を持つ。金融業界以外にもアート業界への関心からニューヨークの美術館にも勤務した経験を持つ。

増山&Company合同会社 代表社員社長
立命館大学大学院経営管理研究科客員教授
増山 美佳
日本銀行に勤務後、Cap Gemini Sogeti本社(在仏)にてInternational Marketing Director就任。帰国後、市場参入戦略、M&A及び組織・業務改革等コンサルティングに従事。エゴンゼンダー株式会社パートナーを経て、新会社設立。サントリー食品インターナショナル株式会社社外取締役(監査等委員)、コクヨ株式会社社外取締役、鴻池運輸株式会社社外取締役、メットライフ生命株式会社社外取締役を兼任。経営陣の後継者選抜と育成(サクセッション・プランニング)、人財・組織開発(多様性DE&Iの導入等)、エグゼクティブ・コーチング、ガバナンス(取締役会の有効性評価、人事報酬委員会準備支援・運営)を専門分野とする。上智大学法学部国際関係法学科卒。INSEAD MBA。経済同友会会員。

LINEUP

講座ラインナップ



「今」を紐解く7つのキーワードから
興味のある講座を見つけてみてください。



伝統文化から見た
日本 ▶P.08



アジアの宗教と社会 ▶P.09

歴史、宗教に学ぶ 世界の俯瞰



グローバル組織が直面する
文化摩擦とその克服
～ローマ・カトリック教会の
世界伝道の試行錯誤に学ぶ～ ▶P.08



イスラーム諸国の宗教と政治
～建国のリーダーの理念と現実 ▶P.09



グローバルリスクと
戦略的コミュニケーション ▶P.09



世界から見た
日本文学と美術 ▶P.09



SDGsを哲学する
～平和・平等・正義・幸福・
公共・ケアを考える ▶P.07



人間学と地域循環共生圏
～ともに生き、学び、働く ▶P.07

人間の本质と 倫理、哲学



身体知の実践
～ソマティックな
人間観に依拠して～ ▶P.08



仕事に生かす哲学的対話
～深く豊かな思考のために ▶P.07



社会課題を起点とする
イノベーションの興し方
～当該分野の国際規格の
世界動向も学びながら～ ▶P.11



がんサバイバーと共に
生きる社会を目指して ▶P.11



イノベーション・マネジメント
プロフェッショナルになるための
基礎を身につける ▶P.11

良質な社会に 向けた 責任とアクション



人的資本経営と
企業価値向上について
～人材の価値を最大限に引き出す～ ▶P.13



海と安全保障 ▶P.10



ジェンダー、LGBTQと
多様性
～信頼できる知を求めて ▶P.12



フランス文学を短編で読む
～文学で人と社会を読み解く～ ▶P.10



Understanding the World in the Language
of International Liberal Arts ▶P.10



現在・過去・未来をつなぐ
生命科学概論 ▶P.13



イノベーションを推進する
ソシオ・エコシステム ▶P.14



障害者の心理学
～差別や偏見のない
共生社会の実現に向けて～ ▶P.12



サステナビリティ社会における
企業の環境戦略
～法、政策、最前線の現場から ▶P.12



マジョリティ側から
ダイバーシティを考える：
特権と立場の心理学 ▶P.13



傾聴力を磨く
～部下のため、部署のため、
そして会社全体のために～ ▶P.17



人工知能：基礎と応用
～人間と人工知能の相乗効果を
引き出すために～ ▶P.17



デジタル駆動社会と
Beyond 6G(2) ▶P.14



変動する地球環境の中で
生き残りをかけて：
食料と環境の科学概論 ▶P.15

科学から 読み解く社会像



先進技術と基礎科学
～意思決定の依拠を考察する～ ▶P.14



実世界データサイエンス入門
～データからインサイトを引き出す力～ ▶P.15



ロールプレイで学ぶ
グローバル交渉力 ▶P.16



交渉学入門：
より良いネゴシエーターとなるための
理論とスキル ▶P.15



グローバルコミュニ
ケーション・リテラシー
～グローバルメディアの変容と相互理解 ▶P.16



質問力を磨く[入門編]
～脱・思考停止～ ▶P.16

交渉のための 論理と批判



国際会計
～IFRSの会計情報と
グローバル企業の財務分析～ ▶P.18



データサイエンスの実践
～資産化するデータと技術～ ▶P.18



中東問題の理解
～マイノリティー集団から考える共存、
多様性と排除、分裂 ▶P.19

スペシャリスト 養成講座



コロナ以降の環境をめぐる
企業のパラダイムシフト：
コロナ以降SDGs達成に向け
世界はどのように変化し、企業は変革に向けて
どのように対応していけばよいのか ▶P.18



質問力を磨く[実践編]
～脱・思考停止～ ▶P.19



世界最小国バチカンから
世界最大級の影響力を読み解く
～教皇庁の歴史と外交から～ ▶P.19

教養講座

人間の本質と倫理、哲学

講座1111

人間学と地域循環共生圏～ともに生き、学び、働く

担当コーディネーター

基盤教育センター 教授

吉川 まみ

上智大学では、「キリスト教人間学」という固有の人間学が開講されています。これは、キリスト教的な「かかわりの存在」としての人間理解を涵養することをねらいとする全学共通の必修科目です。「かかわりの存在」としての人間理解とは、人間存在を「自己」、「他者」、「自然」、「超越」という4つの関係性に置かれたものと捉え、これらの調和を願うものです。本講座では、このような上智固有の人間学的な考え方を参照しつつ、現実の社会的次元で、新しい価値、新しい発想で、地域循環共生圏を視野に入れたローカルベンチャー事業や困難を抱えた人々の居場所づくりに取り組んでおられる方々の実践事例に学びます。これらを通して、私たち自身が、人間として生きる意味、学ぶことや働くことの意味や価値、自分自身の持続可能性やレジリエンスを一緒に考える機会にしたいと思います。

開講のねらい

上智の教育精神「かかわりの存在」としての人間観を参考にしつつ、新しい発想でインクルーシブな地域づくりに取り組む方々に学びます。そこから改めて、生きること、学ぶこと、働くことを考える機会になることを願っています。

講座1112

SDGsを哲学する

—平和・平等・正義・幸福・公共・ケアを考える—

担当コーディネーター

名誉教授

大橋 容一郎

日本政府の「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、哲学など人文学の知見を基盤として、「直面する脅威に対し、持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ (well-being) を実現できる社会」を目指す、とうたわれています。個人も社会も、対症的なリスクヘッジにとどまらず、より人間的な目的を実現する視点と規範をもつことが必要とされているのです。この講座ではSDGs(持続可能な開発目標)の諸項目について、あらためてその内容を検討したいと思います。各企業も取り組みを求めるSDGsですが、その核心となるのは「平和、平等、正義、幸福、ケア」などの哲学的理念です。本講義ではそれらの理念についてその哲学的な内容と意義を、資料やテキストを使ってともに考えます。

開講のねらい

SDGsに謳われている「平和、平等、正義、幸福、ケア」などは、たんなるスローガンではなく、それぞれが哲学的な意味もっています。本講座では、いくつかの哲学のテキストからその内容について考えます。

講座1113

講座1213

仕事に生かす哲学的対話

—深く豊かな思考のために—

担当コーディネーター

文学部 哲学科 教授

寺田 俊郎

哲学は古くからある学問分野ですが、大学の研究室や教室に閉じ込めておくのはおかしなことです。というのも、哲学とはもともと学問分野ではなく、「知を愛し求めること＝philosophia」であり、人間と人間を取り巻く世界に知的な好奇心を持つ人なら、誰でも取り組むことのできる知的活動だからです。18世紀の大哲学者イマヌエル・カントが「世界概念の哲学」を「学校概念の哲学」から区別し、前者が本来の哲学だと論じたことが、それをよく表しています。哲学的思考の対象となる問いは、私たちの生活・人生＝lifeのそこかしこに潜んでいます。もちろん、私たちの仕事の場にも。そうした問いを拾い上げ、対話を通して一緒に考えてみませんか。それは楽しいだけでなく、仕事の場で出会う様々な問題を解決するのに役立つ、深く豊かな思考を育むことにもなります。対話の後で、考え続けるヒントを過去の哲学者の言葉の中から紹介します。

開講のねらい

哲学的な問いを自分で考え、他の人々と対話しながら考えることによって、職業生活や社会生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。

人間の本質と倫理、哲学

講座1212

身体知の実践

～ソマティックな人間観に依拠して～

担当コーディネーター

名誉教授

鈴木 守

身体をテーマ化することの現代的意義について、現代社会論の文脈で議論することから本講座はスタートします。現代社会やマスメディアを席巻する身体をめぐる様々な社会現象がどのような問題性を孕み、その結果どのような身体観を人々にもたらすのかを探ることでその特性を捉えます。社会的に築かれた現代的身体観こそが、その延長としての世界構築の枠組となり、それが科学技術優先主義や経済合理性によって牽引されて今日に至るのです。この文明化の過程では機械的合理性がもてはやされ、一方でないがしろにされてきたのは「身体知」「身体性」や「内なる身体(ソーマ)」への配慮です。多様な職業的背景をもった講師陣は、それぞれ固有の身体性やソマティックなワークを実践しています。参加者全員が体験する参加型の講座を通して、身体知の存在を肌で感じ、理解し、その感覚経験がより良き世界の構築にどのように活かせるのかを学ぶことになります。混迷する時代であることが、かえって本講座の存在意義となるのです。

開講のねらい

今日の科学技術の著しい進歩・発展には目をみはりますが、一方で構築された文明(環境世界)が人間社会にもたらす有害性(格差、災害、核問題等)も許しがたい状況にあります。このような時代に、人は何を根拠に生を再考し、新たな社会構築の方向性を見出すのでしょうか。いまこそ、近・現代を牽引してきた近代合理主義を形づくる科学知を相対化する知の在り方が求められます。人間が人間である根拠となる身体、特に内なる「身体其自然」、一人称の気づきから出発する社会構築の意味と意義を見出すのが本講座のねらいです。

講座1121

伝統文化から見た日本

担当コーディネーター

文学部 国文学科 教授

長尾 直茂

日本の伝統文化といわれて何を思い浮かべるでしょうか？ コロナウィルスとの戦いでもあった東京オリンピックの最中に、「日本のお家芸である柔道」というようなフレーズをたびたび耳にされたことと思います。確かに柔道のような武道文化は日本古来の伝統文化と考えてよいものです。それでは、その武道文化の形成はどこにルーツをもち、どのような過程を経て出来上がったものなのでしょうか。この講座では、日本の伝統文化とされるものの中から、表象文化・食文化・身体文化・文芸に属するものとして、絵画作品(南画)・煎茶・武道(武道伝書)・古典文学作品を取り上げながら、そのルーツや展開の過程などを一緒に考えていきたいと思います。

開講のねらい

形式張って、古くさいもののように見なされる日本の伝統文化を、文献資料に基づきながら新たな視点から読み解いてゆきます。

講座1222

グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服

～ローマ・カトリック教会の世界伝道の試行錯誤に学ぶ～

担当コーディネーター

名誉教授

山岡 三治

ローマ・カトリック教会は世界的に一つのまとまった組織で、信徒数は12億人を越えており、世界最大の宗教教派です。その2000年の歴史のなかで、かずかずの政治や文化の挑戦を受け、本質を見失わずに、失敗と成功を繰り返しながら、世界のすみずみに浸透してきました。その基本は相手の文化を学び、適応することでした。第一日目は、その間の歴史を垣間見ることで、企業や組織がグローバルでありつづけるために参考になることと思います。二日目では、今日の三つの分野での具体的活動を紹介したいと思います。今日もさまざまな視点と実践を通して、世界の平和と人類の発展という共通目標に寄与しようと努力しています。それらの実践に共通していることは、カトリック教会が独立して働くのではなく、他の宗教、一般の活動団体と密接に協力していることです。この姿勢も今日、より効果的な活動を行ううえで、とくに求められていることであろうと思います。

開講のねらい

個人的生活において、また組織において、ともに生きるために具体的にどのような配慮が必要か、歴史を見ながら考えます。また現代の問題にも目をそらすことなく、自分にできることを考える機会としたいと思います。

教養講座

歴史、 宗教に学ぶ 世界の俯瞰

グローバルな 視野と ローカルの視点

担当コーディネーター

名誉教授
寺田 勇文

講義
番号

1223

アジアの宗教と社会

アジアには、古くから仏教、キリスト教、イスラムなど世界の主な宗教が進出しています。加えて各地域では、ヒンドウ教をはじめ独自の民族宗教、民俗宗教が広く信仰されています。たとえば、私たちはインドといえばヒンドウ教、インドネシアはイスラム、タイは仏教、フィリピンはキリスト教の国というようなイメージを持っていますが、実際にはそれぞれ国や地域の宗教構成、宗教事情は多様で複雑です。同じ国や地域のなかでも民族や歴史によって異なることもあります。この講座では、各地域で長期間の調査研究経験をもつ講師が、それぞれの地域の宗教事情、宗教文化、宗教と社会のありようをわかりやすく解き明かします。

開講のねらい

宗教というテーマは紛争や対立のきっかけになることもあり、相手国や地域の方々と議論することが難しい場合があります。アジアの社会をより深く理解するために、アジアの宗教についての基礎を学びます。

担当コーディネーター

名誉教授
私市 正年

講義
番号

1131

イスラーム諸国の宗教と政治

ー建国のリーダーの理念と現実

イスラーム(教)は個人の生活や社会生活だけでなく、政治にも関わることから、イスラーム諸国における「宗教と政治の関係」は近代的な、いわゆる政教分離主義が支配的な今日にあって、しばしば地域的、国際的に難しい問題を生じさせています。しかし、イスラーム諸国においても、「宗教と政治の関係」は国によって異なり多様です。それは、建国のリーダーがいかなる「宗教と政治の関係」を構想したか、に大きく影響を受けているからです。本講座では、今日の国の基礎を築いた建国のリーダーたちの構想に着目し、その後の変化の実態を検討することによって、イスラーム諸国における「宗教と政治の関係」の多様性を明らかにするとともに、それが投げかける今日的課題(地域内の宗教的共存問題や移民、出稼ぎなどの問題を含めて)を検討することを目的とします。対象とする国とリーダーは、トルコとケマル・アタテュルク、チュニジアとブルギバ、エジプトとナセル、インドネシアとスカルノ、イランとホメイニ、サウディアラビアとアブドゥルアジーズです。なお事前課題資料と課題が毎回、提示されます。

開講のねらい

本講座では、イスラーム問題を「宗教と政治」の関係から検討することにより、近代社会の特徴といわれる「政教分離」の理念がイスラーム諸国で多様な形で受容されている実態とその意味を考えることを目的とします。

担当コーディネーター

文学部 新聞学科 准教授
国枝 智樹

講義
番号

1132

講義
番号

1233

グローバルリスクと戦略的コミュニケーション

グローバル化の進展は企業に様々な機会とリスクをもたらし、新たな戦略的コミュニケーションのニーズを生み出しています。政治や経済領域における国際摩擦や世界情勢の多極化、価値観の多様化がもたらす多種多様なリスクを戦略的なコミュニケーションによって早期に察知・分析し対応することは、国際社会で信頼される組織としての地位を確立し維持する上でも不可欠です。適切なタイミングや内容で行われるコミュニケーションは組織を、時には人命や社会を救うことにも繋がります。他方その失敗は大きな損失をもたらしかねません。国際的なルール変更といったリスクについても、オピニオンリーダーや社会とのコミュニケーションが重視されています。本講座では、欧米を中心に発展したリスクや危機・クライシスに対する戦略的コミュニケーションの理論や歴史に基づき、過去や現在の事例について議論をすることで、グローバルリスクへの向き合い方について考えます。

開講のねらい

世界情勢の多極化や競争の激化、価値観の多様化がもたらす様々なグローバルリスクに対応する上で、政府や企業に求められる戦略的なコミュニケーションとは何でしょうか。歴史や理論、事例を通して考察します。

担当コーディネーター

国際教養学部 国際教養学科 教授
ユー・アンジェラ

講義
番号

1133

世界から見た日本文学と美術

日本文学と美術は日本国内にとどまらず、世界各地で読まれて鑑賞されています。日本の特色は海外へ影響を与えると同時に、海外からの要素を取り入れ、その双方向の刺激による創作過程で新たな複合性をもつ近・現代の日本文学・美術が生まれました。本講座では、1945年以降、海外でも高く評価された文学・美術作品に焦点を合わせて、なぜ世界的に読まれたか・鑑賞されたかを考察し、日本文化の複合性・ハイブリッド性を評価し、日本と世界との境界線をぼやかしながら、その接点を探求します。

開講のねらい

「世界とのつながり」は開講のねらいです。人類は原初から絵を描き、物語を作ります。美術と文学は人類共通の「言葉」です。日本文学、映画、美術の趣を探索し、海外の友達と「世界のJAPONISME, KAWABATA, KUROSAWA, OE」などについて歓談してみませんか？

グローバルな 視野と ローカルの視点

担当コーディネーター

文学部 フランス文学科 教授
永井 敦子

講義
番号

1232

フランス文学を短編で読む

ー文学で人と社会を読み解くー

文学には馴染みがない、翻訳は読みづらいし、関心はあるが暇がない…、本講座にはそう思われる方にも、ぜひご参加いただきたいです。毎回、19世紀半ば以降の著名なフランス・フランス語圏作家の短編小説(や散文詩)をあらかじめお読みいただきます。予備知識は特に必要としません。作品を読んだの率直な感想や疑問点などを、簡単に整理しておいてください。クラスでは作家や時代に関する解説の後、受講者の方々とともに作家の創作姿勢や作品の構造などを分析的に解読します。作品によっては映画など、関連する他ジャンルの作品も紹介し、検討材料にします。フランス文学に登場する個性豊かな人々の暮らしぶりや言葉のなかに、日々の仕事に新たな発想を加えたり、閉塞的な人間関係の風通しをよくするためのヒントが見つかるかもしれません。短い作品のなかにどのような発見があるか、意見交換を楽しみにしております。

開講のねらい

課題の作品は、普段新聞や書類を読むときよりゆっくり、「自分にもこんなことがあった」、「この主人公は、自分の上司に似ている」などご自身の経験にも照らして、思いをめぐらせながら読んでください。言葉の向こうにある感情の機微に想像力で分け入る体験は、明日からの日常をより豊かに生きることにもつながると思います。

担当コーディネーター

総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授
都留 康子

講義
番号

1234

海と安全保障

国際社会の動きは激しく、今日、日本の安全保障についてもあらためて考えなければならない状況になっています。日本は、いうまでもなく四方を海に囲まれており、周辺国、とりわけ中国の海洋進出は大きな脅威にもなっています。また、ロシアとの関係も予測がつきません。一方、海は、軍艦や船舶航行だけではなく、漁業資源、エネルギー、環境にとっての海と様々な顔を持っています。これらは日本の経済、人々の暮らしそのものを支えていて、大きな意味での安全保障の問題ともいえるでしょう。全6回の講義では、日本を中心とする海洋問題とその現状、解決策を、国際政治の視点、国際法の視点、また国際交渉の現場の視点から俯瞰していきます。政治・交渉の場は、法を作り出し、今度はその法が政治を統御します。そうした相互作用についても知見を得られるでしょう。

開講のねらい

Covid-19やロシア問題を通して、日本が他国との相互依存関係にあることを痛感したのではないのでしょうか。物流にとって海が重要なのはもちろん、エネルギー、環境問題、近隣諸国との安定的な関係など、すべてに海を抜きにすることは考えられません。海との関係性から受講者それぞれの仕事や生活を考察するとどうなるのか、一緒に考えていきたいと思います。

担当コーディネーター

国際教養学部 国際教養学科 教授
ユー・アンジェラ

講義
番号

1235

Understanding the World in the Language of International Liberal Arts

The language of international liberal arts(国際教養の言葉) is not confined to the narrow meaning of languages, such as Japanese, English, or French. It is a language that fosters understanding and communication among humanity. It speaks in many voices and enables people in different fields and cultures to find a common language for discussion and understanding. It is complex but not exclusive, and it aims at connecting our minds across borders and nationalities to build something larger and more meaningful than what a single specialized language can accomplish. In this course, we will examine essays, visual culture (art and film), literature, documentary, and news stories to see how the language of liberal arts allows us to communicate with each other across borders, cultures, time, and specializations. All reading and visual materials will be available in English and Japanese. In class, lectures and discussion will be primarily in English with some references and explanation in Japanese when necessary. Students are encouraged to develop an interest in exploring reading and visual materials in the liberal arts and take the challenge to express and communicate thoughts and ideas in English. Discussion topics will include the meaning of work and the questions of identity, gender, family, and peace.

開講のねらい

The aim of this class is to find a common language that enables us to communicate meaningfully and effectively with people in different fields of interest and occupation, by exploring the universal and humanistic language of international liberal arts. We hope to nurture lively discussions in a bilingual environment, with an emphasis on English.

教養講座

良質な 社会に向けた 責任とアクション

1141 社会課題を起点とするイノベーションの興し方 ～当該分野の国際規格の世界動向も学びながら～

世界的にSDGs、ESG、気候変動などに代表される社会課題を持続的な形で解決していく「サステナビリティ経営」が注目されており、サステナビリティは21世紀の国や企業の競争力を高めていく上で最も重要な概念と言えます。一方、サステナビリティはCSRやIRの分野であり、売上達成を必須とする本業とは無関係という意見や、経営者は外向きには発信しているものの社内では具体的な活動にはなっていないという例もあるようです。当コースでは、そのような状況を踏まえた上で、世界各国の先進事例を共有しながら具体的な社会課題を一つ取り上げ、課題解決を目指すイノベーションプロセスを実践していきます。その際に、イノベーション・マネジメントシステムの国際規格であるISO56002の考え方や、システム思考やデザイン思考の要素も取り入れながら、大企業からイノベーションを興す方法論も習得していきます。

開講のねらい

具体的な社会課題を軸に、毎回のレクチャーとワークショップの組み合わせ(50:50)であり、他参加者との積極的な意見交換や協働作業を通して皆さんの視点を大きく広げていくことを目指します。

担当コーディネーター

特任教授

西口 尚宏

良質な 社会に向けた 責任とアクション

1241 ジェンダー、LGBTQと多様性 ～信頼できる知を求めて～

ジェンダー平等や、LGBTQと多様性についての知識は、今や社会人にとっては必須のものです。これらについての知識が不足すれば、社内のマネジメントや、国内外の組織や人との交渉にも支障をきたすでしょう。しかしながら、きちんと教育を受けた人も国内ではまだ多くありません。独学で勉強しようとしても、その需要から、これらの分野については、たくさんの玉石混合な情報が、ネットや市中、日常生活のなかにあふれています。必要な情報を取捨選択するための前提知識の獲得、および、さまざまな情報を積み上げるための土台を築くことが本講座の学びの目的です。前半は、ジェンダーについて学びます。どのようなところにジェンダー格差が存在するのか確認するところから始めましょう。また、ジェンダーの異義申し立てはなかったことにされたり、軽く見られたりしますが、それにはどのようなテクニックが用いられているのでしょうか、確認してみましょう。セクシュアリティに関しては、LGBTQ／SOGIEについて取り上げます。「LGBTQ」「SOGIE」を学ぶ際に、重要な視点とは一体何なのでしょう。歴史などを簡単に振り返りながら、社会学の知見から、理解されるべきポイントの基本は何であるのかと一緒に確認しましょう。講義では、事前にテキストを配布しますので、それを読んできたうえで、講義にご参加ください。

開講のねらい

ジェンダー・LGBTQについて、わかったふりで乗り切ろうとしていませんか?あなたの周囲や社会をよりよく変えていくために、必要な知を獲得しましょう。

担当コーディネーター

総合人間科学部 社会学科 准教授

石井 由香理

担当コーディネーター

総合人間科学部 心理学科 教授

横山 恭子

1142 がんサバイバーと共に生きる社会を目指して

日本人が一生のうちに癌と診断される確率は、2019年データに基づく計算では、男性65.5%、女性52.3%と言われています(国立がん研究センターがん情報サービス)。また、生涯で「がん」で死亡する確率は、男性26.2%、女性17.7%となっています(国立がん研究センターがん情報サービス)。がんはすっかり身近な病気となりました。その「がん」の治療の進歩は目覚ましく、不治の病から慢性疾患への位置づけを変えてきています。自身が、あるいは家族ががんを抱えて生きることになった時に、どうしたら社会参加への障壁を低くすることができるでしょうか。また、家族の病気はどのように子どもに説明すれば良いのでしょうか。子どもががんにかかった場合の教育も大変重要な問題だと思います。加えて、成長期の子どもががんの治療を受けてその後の長い人生を生きる時、晩期合併症と言われる問題が生じることも明らかになってきました。この講義では、そのようながんの治療に取り組む大人や子どもとその家族の問題について、一緒に考えてみたいと思います。第一線のビジネスマンにとって、ご自身や家族や家庭を振り返り、正面から向き合う機会にもなることでしょう。またがんを抱えて一緒に生きる仲間たちが生きやすい社会について、これから一緒に考えるきっかけとしていただければ幸いです。

*数字は全て国立がん研究センターがん情報サービス https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/index.html

開講のねらい

がんサバイバーとして生きる人が多くなっている現在、がんサバイバーに対するさまざまな支援が行われるようになってきています。当事者や周囲の人がそのような支援やその背景にある困難を知ることを通して、さらにできることがないかを考えていくことにより、皆で共生可能な社会を築いていくことができると考えています。

担当コーディネーター

特任教授

西口 尚宏

1143 イノベーション・マネジメントプロフェッショナルになるための基礎を身につける

イノベーションの実現を通じた社会的な価値の実現や組織の成長は、すべての国の全ての産業にとって優先順位が高いのですが、その成功率は極めて低いのが実態です。2008年ごろからヨーロッパを中心に始まった既存組織からイノベーションを興すための「マネジメントシステム」の国際標準化の動きは、2013年にISOによる国際規格開発の開始へ繋がり、2019年の「ISO56002: イノベーション・マネジメントシステム(ガイダンス規格)」の発行に繋がりました。その結果、既存組織からのイノベーション創出を本業とする「イノベーション・マネジメントプロフェッショナル(IMP)」という新しい職業が生まれつつあります。当講座の講師は、2015年からISO56000シリーズの開発に一貫して関わり、ほぼ全ての規格本文の主要著者であり、また、スウェーデンの国立研究機関であるRISE(Research Institute of Sweden)からイノベーション・マネジメントプロフェッショナルの公式認定を受けている唯一の日本人です。国際的な通用性を持つ教養としてのIMPになるための基本的な考え方をお伝えします。

開講のねらい

「組織からイノベーションを継続的に興せるようになりたい」。そのためには世界ではすでに当たり前になっている考え方を身につける必要があります。当講座を通して今までの常識をひっくり返すことを目指します。

担当コーディネーター

名誉教授

久田 満

1242 障害者の心理学

～差別や偏見のない共生社会の実現に向けて～

いつになってもこの世から偏見や差別がなくなりません。それどころか、ヘイトスピーチやネット上での誹謗中傷、さらには暴動や殺人に至るまで、偏見や差別が元となって起こる悲惨な現象はむしろ増加傾向にあるように思われます。なぜ人は、自分達とは異なる他者(障害者、LGBTQ、他民族、外国人など)を差別し排除しようとするのでしょうか?この講座では、心理学の視点に立ち、主として心身に障害のある人々を例にして、偏見や差別がどのようなメカニズムで形成されるのかを理解することを目的とします。そのうえで、これまでに試みられてきた様々な差別の解消法について検討します。日本の障害者数は約1千万と発表されています。そのような方々に対して、そうでない人々はなぜ偏見や嫌悪感を抱いてしまうのかという疑問に対する答えを受講者の皆さんとともに考えていきましょう。なお、本講座では「障がい」ではなく、あえて「障害」と表記します。

開講のねらい

今は健康でも、病気やケガ、老化によって誰もがいつかは障害者となり得ます。受講者お一人お一人が自分事として、差別のない社会、すなわち「共生社会」の実現を目指してどう行動すべきかを考えていきましょう。

担当コーディネーター

法学部 地球環境法学科 教授

北村 喜宣

1243 サステナビリティ社会における企業の環境戦略 ～法、政策、最前線の現場から～

ESG(環境・社会・ガバナンス)投資やSDGsの進展により、企業を取り巻く状況は劇的に変わりました。法令遵守以上の取組みを期待する市場や投資家のプレッシャーの中で、これからの企業は、単なる法令遵守に取組むのではなく、市民社会、市場、そして、地球という、より大きな枠組み・コンテクストのなかで、自社の進むべき方向を自ら考えなければなりません。本講座においては、社会的存在である企業の環境活動のあり方を、ESG投資やSDGsという枠組みのもとに位置づけます。そして、毎回の講義においては、それぞれの企業がどのような価値や理念を認識し、どのような意思決定体制を整備し、どのような措置を講じるべきなのかを具体的に検討します。GX(グリーン・トランスフォーメーション)、サーキュラーエコノミー(循環経済)、再生可能エネルギー、生物多様性、SDGsなどについて、それぞれの専門家等を招き、最新動向と企業の在り方を学んでいきます。

開講のねらい

企業の環境戦略を巡る動きが劇的に変化しています。本講座では、GX、サーキュラーエコノミー、再生可能エネルギー、生物多様性、SDGsなどの最新動向を把握し、サステナビリティ社会における企業の在り方を考えます。

教養講座

良質な 社会に向けた 責任とアクション

1244 マジョリティ側からダイバーシティを考える： 特権と立場の心理学

人は誰でもマジョリティ性とマイノリティ性のアイデンティティを持ち合わせていますが、マジョリティ性を多く持つ人は自分の特権（労働して得る優位性）になかなか自分自身で気づくことができません。自分の特権に無自覚な人の多くは、社会的不平等とはマイノリティ側を不利な立場にするものだと思えたとしても、マジョリティ側を優遇するものだと思え方はしません。真の意味でダイバーシティを実現するためには、今まで不問にされてきたマジョリティ側の特権や心理的特徴（態度・心理・行動・成長）に焦点を当て、特権を持つ側の責任と課題に迫る必要があります。内容としては、差別に「中立」は存在するか？「平等（Equality）」と「公正（Equity）」の違いやマジョリティとマイノリティのアイデンティティ発達理論を取り上げます。

テーマ：6回（1）特権の概念を学ぶ；（2）白人特権・日本人特権；（3）男性特権①；（4）男性特権②；（5）異性愛者・シスジェンダー特権；（6）特権を持つ側の責任と課題

開講のねらい

「ダイバーシティについてどこかモヤモヤする」、「自分は何をすべきなのかがイマイチわからない」など差別や公正の課題についてマジョリティ側の立場から考えることで色々なことを発見してもらおうのが狙いです。

1245 人的資本経営と企業価値向上について ～人材の価値を最大限に引き出す～

人的資本経営という言葉が日本では昨今多く聞かれるようになってきました。その背景とその真意を今一度確認することを皮切りに、どのような課題があるかを明確化します。人的資本というと人事案件のようにとらえられ、処理される傾向もありますが、決してそこで止まる話ではありません。何のための人的資本経営なのか、パーパス、ビジョン、事業戦略との連携がどれだけでできているかがまさに問われつつあります。サステナビリティ経営の核となる人的資本への考え方と事例を紹介し、参加者同士のディスカッションの場を設けます。その中で、企業の成長と個人の成長というテーマにも触れていきたいと思います。参加者には、グループセッションでも課題に向き合ってもらい、そこから人材の価値を最大限に引き出すためのヒントを何か一つでもつかんでもらえれば、と思います。

開講のねらい

人的資本経営は日本企業、ひいては日本社会が持続的に発展していくために必須です。なぜ今、人的資本経営なのかを理解するとともに、人材の価値を最大限にいかに関引き出すのか、個人の成長と企業の成長についても、皆さんと一緒に考えたいと思います。

1152 現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論

遺伝子組換えとゲノム編集、iPS細胞、ウイルス感染、PCR検査など、日々のニュースや報道の中でも生命科学に関わる内容が数多く取りあげられています。先端研究は驚くべきスピードで進歩しており、そこにはビジネスチャンスも数多く含まれていると考えられます。科学、特に生命科学の研究は一つの研究室の中に閉じられたものではなく、その成果は我々の日常生活に密接に繋がるものであり、またそこに国境はありません。このことは何を意味するか？私たちがこれからの社会のあり方に対してより正しい判断、意思決定をしていくためには、これらの日進月歩の研究内容を理解し、生命科学が私たちに何をもたらすのか、私たちの未来をどのように変えていくのかを考え、使いこなす力が求められています。本講座では、先端生命科学研究所の内容の基礎を解説するとともに、その技術がもたらす社会の変革に対していかに判断し、意思決定をしていくのかを科学史に残る過去の事例をもとに考えます。

開講のねらい

抗原検査などが日常化し遺伝子組換え作物が食卓に上る現代、文系理系を問わず社会のあり方や意思決定に必要な先端生命科学研究所の基礎的な理解とその技術がもたらす社会変革を考えることを目指します。

担当コーディネーター

外国語学部 英語学科 教授
出口 真紀子

科学から 読み解く社会像

1154 イノベーションを推進するソシオ・エコシステム

アメリカのIT産業では、エコシステムという用語が広く用いられています。海や空や川があって、豊かな森や土壌があり、日の光が降り注ぐ中で、環境に適した生物が生まれ、育ち、次の世代へと引き継がれていく。シリコンバレーに代表されるアメリカのIT産業はそれと同じようなシステムに支えられているというわけです。さまざまな人間の営みを支える社会経済も同じです。質の高い市場があって、それを支える法律や制度があり、優れた判断力、洞察力、好みに導かれ、さまざまな技術が生み出され、経済活動が営まれ、次の世代に引き継がれていく。イノベーションを活性化し、明るい未来が見いだせる充実した生活を営むためには、そういうソシオ・エコシステムが不可欠です。本講義では、質の高い市場とは何か、どんな法や制度がそれを支えるのか、エコシステムを支える判断力、洞察力、好みとはどんなものか、を社会科学的視点から明らかにし、健全なソシオ・エコシステムの構築によるイノベーション推進の道を考えます。

開講のねらい

日本経済は、30年以上にわたる長期停滞になやんでいます。長期停滞の原因として、少子高齢化がよくやり玉にあげられます。しかし、人口を増やしたところで、人々の生産性が向上しなければなりません。経済やビジネスを活性化するために本当に必要なのはイノベーションの推進です。そうはいっても、号令をかければイノベーションが実現するというわけでもありません。どのようにしたら、経済や企業にイノベーションを導入できるのか。それを受講者と一緒に考えます。

1251 先進技術と基礎科学～意思決定の依拠を考察する～

現代社会のいたるところに先進技術が使われています。その背後には基礎科学の原理があり、それを理解することで、なぜある技術が実現され別の技術は実現できないのかわかることがあります。また、基礎科学の原理を知っておくことは重要な意思決定を行う際にも欠かせず、実際、参考文献に挙げた「Physics for Future Presidents」は非常に好評です。例えば、化石燃料がなぜこのように好まれるのかはエネルギーを計算することで簡単にわかります。また、光の速さが有限だと知っておくと、コンピュータの計算スピードや情報の伝達に原理的制限がかかることが自然とわかります。この授業では、先進技術の背後にある基礎科学を解説し、基礎科学の理解に基づき意思決定ができることを目指します。また、基礎科学の法則が制限する科学技術の限界、今後なくなる職業の予測、今後の科学技術の発展について、量子コンピュータや核融合などを念頭に考察します。

開講のねらい

現代社会の根幹をなすテクノロジーも全て自然科学の法則の枠内で成り立っています。自然科学が現代のテクノロジーにどのように関わっており、どのような制限をもたらしているかを議論します。

1252 デジタル駆動社会とBeyond 6G (2)

デジタル技術が深化・定着し、データ利活用が浸透したデジタル駆動社会の実現に向けて、通信・メディア情報処理・AIなどのIT基礎技術のさらなる発展と、それらの技術の脳科学・生物学などへの応用の拡張が強く期待されています。本講座ではこれらの基礎・応用分野の双方の最先端研究開発事例を紹介し、2030年導入予定の6G通信のその先の2040年以降の時代をBeyond 6Gと呼び、15年以上先の未来の技術について紐解きます。通信・メディア情報処理・AI・脳科学の専門家の3人のゲストスピーカーとコーディネーターが登壇します。ゲストスピーカーおよび講義内容は毎年更新しておりますので、過去に当コーディネーターの講座を受講した方も受講いただけます。

開講のねらい

当講義は、進歩が早くキャッチアップの難しい最先端情報通信技術と、全体像がわかりにくい情報通信産業の現状とを、6回の講義で効率的かつ効果的にお伝えできるよう工夫を行なっています。45分の講義と45分の講師とのQ&Aを通して、ご不明な点を解消し、ご興味を持ったトピックをより深く理解ください。

担当コーディネーター

特任教授
矢野 誠

担当コーディネーター

理工学部 機能創造理工学科 教授
大槻 東巳

担当コーディネーター

理工学部 情報理工学科 教授
矢入 郁子

教養講座

科学から 読み解く社会像

講義1253 変動する地球環境の中で生き残りをかけて： 食料と環境の科学概論

現在地球上には約80億人が暮らしており、2050年には90億人に達すると言われています。私たちの活動はこの一世紀で爆発的に成長し、今や地球環境を脅かすに至っています。このような状況は、「CO2を吸収し食糧を生み出す植物」と「食糧を消費しCO2を放出する人類」の活動のバランスから視ると理解しやすいように思われます。地球環境問題への取り組みというと、COP、京都議定書、パリ協定等の言葉を思い浮かべる方が多いと思います。様々なメディアを通して地球の今が語られ、新たな取り組みが紹介されています。環境問題への取り組みについても、今すぐに出来ることと、遠い将来を見据えて出来ること、様々な内容が同次元で語られています。しかし、実際の科学研究という視点から見たら何が見えてくるのでしょうか？ この講座では、食糧と環境という生命の維持存続に関するキーワードを中心に、各講演者がそれぞれの分野の今について概説します。遺伝子組換え植物がどのように作られるのか？ そしてどのようなメリットやデメリットがあるのか？ 地球環境の変化がどのように生物や人に影響を与えているのか？ ニュースで伝えられる事実の表と裏など、それぞれの立場で話をします。

開講のねらい

本講座では、急速な人口増加と環境変化に着目し、科学的な知識を通じて持続可能な未来を構築するための知識を提供します。参加者はこれら問題に関する包括的な理解を得て、未来を切り開く力を磨くことが出来ます。

担当コーディネーター

理工学部 物質生命理工学科 教授
神澤 信行／藤原 誠

講義1254 実世界データサイエンス入門 ～データからインサイトを引き出す力～

ビジネスを取り巻く環境が劇的に変化するなか、経験と勘に基づく事業運営から、データドリブンの事業運営へと大きな変革が起こっています。実世界データサイエンスとは、実世界データ×AIによって有用なインサイトを発見し、課題解決につなげるアプローチであり、データドリブンでの事業運営において不可欠です。本講座では、基本的なAI技術の講義およびケーススタディを通じてデータサイエンスによる課題解決の方法を習得します。AI技術として、機械学習および大規模自然言語モデル(LLM)の基礎について概説します。ケーススタディでは、ビジネス活動で蓄積される典型的な実世界データ(商品データ、顧客データ、店舗データ)について、AIとの掛け合わせによる活用事例(商品需要予測、情報推薦、来客需要予測)を学びます。そして、未来に向けた話題として、大規模自然言語モデルを活用した実世界データからのインサイトの引き出し方について学びます。

開講のねらい

ビジネスの現場で蓄積されるデータは加速度的に増加しています。AIを活用することでどのようなインサイトが引き出せるでしょうか。古典的な機械学習から最先端の大規模言語モデルまで活用事例を通じて考察します。

担当コーディネーター

大学院 応用データサイエンス学位プログラム 准教授
深澤 佑介

交渉のための 論理と批判

講義1161 交渉学入門： より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル

私たちの生活は無数の交渉から成り立っています。より良い交渉ができることは、大きな強みとなりますし、逆に、交渉力がなければ、どれだけ良い知恵・アイデア・リソース等を持っていたとしても、それらを十分に活かすことは難しくなります。交渉には、取引先との価格や取引条件の交渉、トラブルを解決するための交渉、組織内での交渉、外交交渉、日常生活での交渉、代理人を介した交渉など、多様なものがありますが、どのような交渉に臨む場合であっても理解しておくべき基本、身に付けておくべきスキルがあります。本講座では、より良いネゴシエーターとなるために理解しておくべき基本的な概念・枠組みやその活用の仕方、交渉を通じて価値を創造し分配するための視点やスキル、より良い交渉に役立つコミュニケーションのためのポイント、交渉に影響を与える人的な要因と対処法、交渉のプロセス、難しい交渉に対処するための手掛かり、多数当事者交渉のポイント等を学びます。講座は、①理論・枠組み・スキルについての講義、②講義で学んだことを実践するロールプレイ、③参加者間のディスカッション等を組み合わせて講座を進めます。参加者の方々の主体的な参加が求められます。

開講のねらい

よりよい交渉を行うためには、経験も必要ですが、研究の成果も踏まえたセオリーを理解し、スキルを身に付けることが有用です。この講座でそれらを得て頂き、日々の交渉に役立てて頂きたいと思います。

交渉のための 論理と批判

講義1262 ロールプレイで学ぶグローバル交渉力

担当コーディネーター
法科大学院 教授
森下 哲朗

ビジネスを素材とした交渉ロールプレイを通じて、実務に役立つより良い交渉のためのポイントを学びます。冒頭で、特に重要な幾つかのポイントを確認したのち、ロールプレイを2回程度実施します(2当事者間交渉、多数当事者間交渉の双方を行います)。ロールプレイはチーム単位で行い、チーム内での準備のための議論、実際の交渉、交渉後の振り返り等を行います。こうしたプロセスを通じ、よりよい交渉の準備のための留意点、交渉の現場における効果的なコミュニケーション、難しい場面への対応、よりよい合意形成のための知恵等を学びます。ロールプレイの言語は日本語または英語を選択可能です。全体でのディスカッションは日本語で行います。プログラムの大半は、参加者によるロールプレイと参加者同士、参加者・講師間のディスカッションで行われますので、積極的にロールプレイやディスカッションに参加していただく必要があります。なお、予習課題として、交渉に関するビデオ教材(3時間程度)を視聴したうえでご参加を頂きます。

開講のねらい

よりよい交渉のためには、経験を重ねるだけでは不十分です。よりよい交渉を行うための基本的な知識を備えるとともに、問題意識を持って練習する、練習の結果を振り返り、良く出来た点、改善を要する点を振り返ることが重要です。このクラスは、そのような練習と練習の振り返りを通じ、参加者の交渉力を高めることを目指します。

担当コーディネーター

講義1162 グローバルコミュニケーション・リテラシー
～グローバルメディアの変容と相互理解

文学部 新聞学科 教授
音 好宏

グローバル化が進むなかで、私たちは、必然的に、言語や民族、文化、そして、政治経済的なシステムが異なる社会に暮らす人たちとの相互理解を求められる機会が増えてきているのは確かです。本講義では、「グローバル化の進展」と「相互理解」をキーワードに、20世紀にグローバルなメディア・システムがどのような歴史的な経緯を経て生成・発展してきたかを踏まえつつ、近年のデジタル・メディアが普及・浸透するなかで、既存のメディア・システム、ジャーナリズムが直面するさまざまな問題や課題、また、国際的なコミュニケーションにおける社会・文化的な違いから派生する誤解(コミュニケーション・リスク)などについて、理論と現場の実例から検証します。また、グローバルなデジタル・メディアがシステム形成されつつあるなかで生じている課題と可能性について、日本からの国際発信や、西側先進諸国に拠点を置くメディア・コングロマリットの展開といった実例などを挙げながら、グローバル・メディアのありようについて分析・検証していきます。その上で、現代のグローバル・メディア、グローバル・コミュニケーションに求められるリテラシーについて考えます。講師には、国際的な報道現場で活躍してきたジャーナリストや、先進主要国のメディア戦略を研究してきたメディア研究者、実際にメディア・コンテンツのグローバル展開に携わってきたメディア事業経営者などに登壇いただき、理論的な視点と実務経験・実践的な視点を踏まえながら、講義を進める予定です。

開講のねらい

「グローバル化の進展」と「相互理解」をキーワードに、民族、宗教、文化、体制などの違いに私たちはどう向き合ってきたのかについて、メディア・コミュニケーションの理論と現場の実例から検証します。

担当コーディネーター

講義1163 講義1261 質問力を磨く[入門編]～脱・思考停止～

特任教授
松本 美奈

質問力を磨く基礎講座です。まずは「自分以外の誰かになりきって」新聞を読み、疑問を言葉にするところから始めます。講座はグループワークを中心に進めていきます。○○社の△△という肩書きを教室の外に置いてきて、床に座り、仲間と目線を合わせ、対話を重ねていきましょう。質問には解が必要です。これも仲間と一緒に対話しながら、言葉にしていきましょう。「自分以外の誰か」になって自分を見たら、どんな問いが浮かんでくるでしょうか。これが次のステップです。

開講のねらい

私たちの脳は「ラク」が大好きです。「質問なんて恥ずかしい」「相手に悪く思われるかもしれない」…。私たちはさまざまな思いから、質問をためらい、胸の奥にしまいがちです。それが私たちの脳をさらにナマケモノにします。脳をフル活用できる質問力を磨きましょう。

スペシャリスト養成講座

第2101 交渉力を磨く

～人を動かす交渉・コミュニケーション術：“納得”の導き方～

「あれ、ちゃんと合意したのに相手がいつまでたっても合意内容へのコミットメントをしてくれない」「いいアイデアはあるのだけれど、どう説明したら周りの人たちからサポートを得られるのだろうか」「どうすれば、自分の言いたいことを相手に的確に伝えることが出来るだろうか」「相手が本当は何を考えているのだろうか?」日々のお仕事や生活の中で、そのような悩みをお持ちではないでしょうか。また「自分は交渉やコミュニケーションが苦手だ」とお感じになっていて、お仕事や日常生活において交渉を極力避けようとしているかもしれません。交渉とは、結果を伴うコミュニケーションであり、『自分が欲しいものを手に入れるために行う』行為です。それは、つまり、『交渉を通じて、相手から、あるいは相手と共に、欲しいものを手に入れること』を意味します。本講座では、『交渉において自分が目指すゴールをいかに効率的に手に入れることが出来るか』、そして『いかにして自らの目的の達成を、当事者間の納得の下、行うことが出来るのか』というリーダーのための究極の交渉・コミュニケーション術を理論と実践を通して身につけることを目的としています。ケーススタディを通じて、より実践に近い交渉を実際に体験していただきつつ、行動心理学に基づく心理の理解と交渉テクニックを組み合わせた【明日からすぐに使うことが出来る”行動心理に基づいた交渉・コミュニケーション術”】を身につけていただきます。ぜひ本講座を通して、必ず結果を残すことが出来るネゴシエータへの変貌を遂げていただければと願っています。

開講のねらい

優れた交渉力は仕事や日常生活をより実り多いものとするうえで重要です。交渉のプロフェッショナルからより良い交渉のためのポイントを学ぶことで、自己流の交渉から卒業し、交渉の達人を目指しましょう。

担当コーディネーター

法科大学院 教授

森下 哲朗

第2102 傾聴力を磨く

～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～

「あなたは上司として日頃、部下とうまくコミュニケーションを取っていますか?」と尋ねると、「はい」と答える管理職も少なくないかもしれません。しかし、部下はどう思っているのでしょうか?「私の上司は私のことをよく理解してくれている」と感じている部下は少数ではないでしょうか。この講座は企業の管理職(実際に部下をもっている人)を対象として、部下の「心の声」を聴ける能力、すなわち傾聴力を身につけることを目的としています。教科書は使いませんし、講師の解説も最小限に留めます。ただひたすらスキルを磨きます。ロールプレイを中心として、毎回、全受講者の前で実演して頂きます。言語的コミュニケーションだけではなく、「沈黙」といった非言語的コミュニケーションにも注目して頂きます。なぜなら非言語的コミュニケーションの方が真実を語っていることが多いからです。

開講のねらい

傾聴力は部下、そして同僚や上司との信頼関係の構築に有効な能力です。その傾聴力であなたの管理下の部署を、そして会社全体をより良い方向に変革していった欲しいと思います。

担当コーディネーター

名誉教授

久田 満

第2105 人工知能：基礎と応用

～人間と人工知能の相乗効果を引き出すために～

人工知能(AI)は比較的新しい学問ですが、その活用領域は予測、意思決定、自動化、最適化など多岐に亘って急速に拡大しています。AIと人間にはそれぞれ得意分野があります。例えば、大規模なデータからインサイトを引き出す、あるいは大量の条件から最適解を求める、などはAIが得意です。一方で、様々なコンテキストを読み取る、あるいは一度経験すれば次に応用可能な多くの知識を学ぶことができる、などは人間は得意ですがAIは苦手です。これからの時代では、人工知能の得意・不得意を理解し、人間と人工知能の相乗効果を引き出すことが、社会課題やビジネス課題の解決に重要になります。この講座では、まず、人間が持つ能力(認識、予測・判断、生成、身体・運動、言語・知識)が、どのように人工知能で実現されているかを学びます。そして、それらの能力を使った課題解決の実例を通じて、自らの専門分野へのAIの応用基礎力を養います。

開講のねらい

AIの急速な発展により社会システムの在り方が大きく変わりつつあります。社会で人工知能が登場する場面が増えていく中、どのように人工知能を理解し、どのように付き合えば相乗効果を引き出せるでしょうか。

第2201 国際会計

～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～

企業の持続的成長を進めるうえでは、グローバル市場の急激な変化に対応するための適切な市場進出と事業展開を行うとともに、国内外の投資家からの積極的な資金調達が重要です。近年では、グローバルスタンダードであるIFRSの会計基準に準拠した財務情報に加えて、SDGs関連の非財務情報の適正開示も、企業には強く求められる状況にあります。本講義では、グローバル企業の会計情報にフォーカスして、企業の会計情報の適正開示の方法を検討するとともに、グローバル企業の公表会計情報から直近の経営・会計戦略の動向を分析することを目的とします。また、ゲスト・スピーカーには、経営の現場視点からのグローバル企業の現状を紹介して頂いた上で、受講者とのディスカッションを通じて、日本企業におけるグローバル化の意義について検討することを目的とします。

開講のねらい

企業の経営層として活躍する上では、グローバル企業の様々な戦略策定を会計情報から適切に分析する視点が必要不可欠です。本講義では、そのスキルの習得を目標に、講義を展開しています。

担当コーディネーター

経済学部 経営学科 教授

西澤 茂

第2202 コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト：コロナ以降SDGs達成に向け世界はどのように変化し、企業は変革に向けてどのように対応していけばよいのか

担当コーディネーター

地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授

織 朱實

現在、企業活動を継続していくためには「環境」への配慮は不可欠です。しかし、その対応もCSRからCSVへ、さらに持続可能性をコンセプトとしたSDGs、ESG、グローバルコンパクト、TCFDと様々です。こうした中で、企業はどのように変化する「環境」に対応していくのか、環境を巡る企業のパラダイムシフトのあり方とはどのようなものか、真剣に考えていかなければなくなっています。特に、コロナ以降新たに変化してきた価値観に企業としてどのように対応していくのか、海外の動向もふまえ、変化する環境に流されることなく、そこにポジティブな意義を見出していくためには、変化の潮流を正しくつかむことこそが今まさに企業に求められていると考えます。本講義では、企業活動にとって影響の大きな様々な分野、金融と環境、生物多様性、プラスチック問題、サーキュラーエコノミー、地域活性化、市民対話について、その分野を代表する専門家による最新の情報を提供していただくともに、カードゲーム、グラフィック・ファシリテーション、ワークショップなどを通じて、双方向のダイアログを図りながら企業のパラダイムシフトについて一緒に考えていきたいと思っています。1日目には、プラスチック、サーキュラーエコノミを例にとりながら企業のパラダイムシフトのありかたを考えていきます。2日目は、市民生活を例に取りながら、ネイチャーポジティブ、地域活性化、コミュニケーション、ファシリテーションなどのキーワードを中心に企業のパラダイムシフトのありかたを考えていきます。1日の講義時間が長くなっていますが、集中して講義を受講することによりより理解が深まり密度の濃い議論が期待されています。

開講のねらい

企業が、SDGsを達成し持続可能な企業となるためには、国際的な環境や社会の潮流を常にウォッチしていかなければなりません。最新の情報を、各分野のプロフェッショナルとともに、様々な角度から議論を深めていきます。

担当コーディネーター

特任教授

百瀬 公朗

第2203 データサイエンスの実践－資産化するデータと技術－

企業の経営層の約7割は、今後5年間でAIを拡張できないと、会社存亡の危機があると考えています。AIの新しい研究結果が頻繁にリリースされ、それがデータに大きく依存しているため、多くの企業はデータサイエンティストを雇ってデータを活用し、時流に乗ろうとしています。残念ながら、企業はデータサイエンティストとは何か、企業が成功するために何が必要か、そして彼らの仕事为企业やそのユーザーにどのように貢献できるかを誤解しているところがあります。このコースでは、まずデータサイエンティストとは何か、成功するために何が必要かを明確にし、次にさまざまな分野とバックグラウンドの専門家がサービス(データ駆動型戦略など)やプロダクト構築・展開の経験を講義いたします。自社のデータをいかに資産化し、ビジネスを変革していくために活かすかの知見を提供いたします。

開講のねらい

データサイエンスおよびデータサイエンティストについての本来的な意義と活用について、最先端の現場で活躍しているデータサイエンティストおよび実務家が実践的な講義を行います。

スペシャリスト養成講座

2204 中東問題の理解

－マイノリティー集団から考える共存、多様性と排除、分裂

中東諸国にはいわゆるマイノリティー集団が存在するが、それは宗教的であったり、民族的であったり、また政治的であったり、非政治的であったり、さらに政権を担っていたり、少数派としての地位を強いられていたり、といった具合に多様です。今日の世界情勢をみると、異なる集団が互いに共存よりも排除していく方向性、特定の集団がますます内向きに自己主張を強めていく志向性を感じられます。このような現象をどのように捉えたらよいのか。本講座では、中東におけるマイノリティー問題を手がかりに、紛争や混乱といった面だけでなく、その中にある共存や多様性の可能性といった側面にも目をむけつつ、マイノリティーが関わる政治と社会の諸問題を考えようと思います。対象とする国とマイノリティー集団は、アルジェリアのベルベル人、トルコのクルド人、アフガニスタンのバシュトゥーン人、エジプトのコプト、スーダンの非アラブ系民族、レバノンのキリスト教徒、シリアのアラウィー派、イスラエルのアラブ人です。なお、毎回、事前課題資料と課題が送付されます。また講義で行われる討論では受講生は積極的な発言を求められます。

開講のねらい

本講座では、「中東問題」の背後にある多民族、多宗教の共存や対立の実態をマイノリティー問題から考えることと、今日の国際情勢の中で目立つ、共存よりも排除、特定の集団が内向きに自己主張を強めていく志向性の問題点を検討することを目的とします。

担当コーディネーター

名誉教授

私市 正年

担当コーディネーター

特任教授

松本 美奈

質問を言語化し、解決の糸口を探り出ませんか。そのために必要なのは、一緒に学ぶ仲間です。属性も肩書きも放り投げて、仲間と対話を重ねましょう。ひとりではつかめなかった問いを手にすることができます。新たな問いは、新たな道筋を示してくれます。本講座は「質的統合法」を使って、自分の抱えている現実を可視化していきます。「迷走する会議にうんざり」「部下(上司)との関係に頭が痛い」…。身近な問題の課題の解決策を探っていきましょう。その過程で「今、何をすべきか」も見えてくるはずです。
※[入門編]未受講の方も受講可能です。

開講のねらい

質問は「恥ずかしい」ことではなく、「面倒なもの」でもありません。私たちが新しいことに気づく発見の糸口です。自分自身も気づいていない自分の可能性を見つけるために、質問力を磨きます。

2206 世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く
～教皇庁の歴史と外交から～

現在、国際情勢は目まぐるしく変化しています。各国は国際情報紙に大きな関心と努力を注いでいます。そうした国際情勢の中、外交政策などにおいて特に注目すべきは、世界最小の主権国家「バチカン」です。経済力も軍事力も有さない小国バチカンが、現代国際政治のなかで大きな影響力を発揮しているのは、その「ヒューミント」力、すなわち、政策担当者間の個人的・人間的つながりによる外交力に他なりません。その世界最小にして、最大の国際的影響力をもつ国家、「バチカン」について、歴史、宗教、外交、政治などの多角的側面から、各分野の第一人者を講師に招き、ともに議論を深めます。

開講のねらい

国際関係は、主として莫大な予算と規模、そして力関係でとらえられることが通常です。しかし、「バチカン」の例外を通して、国際的な影響力が発揮されることがいかなることかと問い、それは、ひとえに「人間」関係構築につきるということを理解できればよいと考えています。日本の社会人にとってこの例外「バチカン」の存在が何らかのヒントを与えることでしょ。

担当コーディネーター

文学部 史学科 教授

川村 信三

プレ講座－2025年度本開講予定

5101 ビジネススキルを磨くアート思考

ビジネスパーソンは、グローバルで激変する環境の中、日々多様な業務に従事しています。業務を行う上で必要なビジネススキルを磨くことはもちろん大切ですが、とすると短期的な目標達成のための手段に偏りがちかもしれません。企業のパーパスやビジョンを見据えた中長期的で創造的な視点を見失いがちです。この授業では、変化の激しいVUCA時代に求められる智や学びとは何か、について紐解きます。そしてリベラルアーツ(教養)とは何か、についてビジネス実践智の視点から定義付けます。さらに米国型MBA教育の実例を紹介しながら、その課題を整理し、今なぜビジネスの現場でもアート思考＝創造的な思考も重要になってきているのか、イノベーションの視点も交えいくつかの事例を紹介しながら、議論していきます。

オプション講座として開講している”わいがや智究塾”の塾長によるアート講座になります。5月・6月に同内容を2回実施予定。

2024年度開講スケジュール

全ての講義をオンラインで実施します
★春／秋 同内容開講

プロフェッショナル・スタディーズ Webサイト

https://www.sophia-professionalstudies.jp



■ 教養講座 全6コマ(平日) 朝 8:30-10:00 夜 18:30-20:00

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
1111	吉川 まみ	人間学と地域循環共生圏～ともに生き、学び、働く	春	金	夜	4/19	5/10	5/24	6/7	6/21	7/12
1112	大橋 容一郎	SDGsを哲学するー平和・平等・正義・幸福・公共・ケアを考える		木	夜	5/9	5/16	5/23	5/30	6/6	6/13
1113	寺田 俊郎	仕事に生かす哲学的対話ー深く豊かな思考のために★		水	夜	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26
1121	長尾 直茂	伝統文化から見た日本		木	夜	5/9	5/23	6/13	6/20	7/4	7/18
1131	私市 正年	イスラーム諸国の宗教と政治ー建国のリーダーの理念と現実		木	夜	5/30	6/6	6/13	6/20	6/27	7/4
1132	国枝 智樹	グローバルリスクと戦略的コミュニケーション★		月	夜	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17
1141	西口 尚宏	社会課題を起点とするイノベーションの興し方 ～当該分野の国際規格の世界動向も学びながら～		水	夜	4/24	5/15	5/29	6/12	6/26	7/10
1142	横山 恭子	がんサバイバーと共に生きる社会を目指して		水	夜	4/24	5/8	5/22	6/5	6/19	7/3
1143	西口 尚宏	イノベーション・マネジメントプロフェッショナルになるための基礎を身につける		水	夜	4/17	5/8	5/22	6/5	6/19	7/3
1152	齊藤 玉緒	現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論		金	夜	4/26	5/10	5/24	6/7	6/21	7/12
1162	音 好宏	グローバルコミュニケーション・リテラシー～グローバルメディアの変容と相互理解		水	朝	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19
1213	寺田 俊郎	仕事に生かす哲学的対話ー深く豊かな思考のために	秋	木	夜	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19
1232	永井 敦子	フランス文学を短編で読むー文学で人と社会を読み解くー		木	夜	10/10	10/24	11/7	11/21	12/5	12/19
1233	国枝 智樹	グローバルリスクと戦略的コミュニケーション		火	夜	10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26
1234	都留 康子	海と安全保障		火	夜	10/1	10/15	10/29	11/12	11/26	12/10
1241	石井 由香理	ジェンダー、LGBTQと多様性ー信頼できる知を求めて		月	夜	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16
1242	久田 満	障害者の心理学～差別や偏見のない共生社会の実現に向けて～		火	夜	10/1	10/15	10/29	11/12	11/26	12/10
1243	北村 喜宣	サステナビリティ社会における企業の環境戦略～法、政策、最前線の現場から		月／水	夜	11/11	11/25	12/9	12/23	1/15	1/29
1251	大槻 東巳	先進技術と基礎科学～意思決定の依拠を考察する～		金	夜	10/11	10/25	11/8	11/22	12/6	12/20
1252	矢入 郁子	デジタル駆動社会とBeyond 6G (2)		月	夜	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23
1253	神澤 信行／藤原 誠	変動する地球環境の中で生き残りをかけて：食料と環境の科学概論		金	夜	10/11	10/25	11/8	11/22	12/6	12/20
1254	深澤 佑介	実世界データサイエンス入門～データからインサイトを引き出す力～		木	夜	10/3	10/10	10/17	10/24	11/21	11/28

■ 教養講座 全6コマ (土曜) (1日2・3コマ) A 10:00-11:30 12:30-14:00 14:15-15:45 B 12:30-14:00 14:15-15:45 C 14:15-15:45 16:00-17:30 D 12:30-14:00 14:15-15:45 16:00-17:30

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
1133	ユー・アンジェラ	世界から見た日本文学と美術	春	土	B	5/11①	5/11②	5/25①	5/25②	6/8①	6/8②
1154	矢野 誠	イノベーションを推進するソシオ・エコシステム		土	C	4/20①	4/20②	4/27①	4/27②	5/18①	5/18②
1161	森下 哲朗	交渉学入門: より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル		土	A	4/13①	4/13②	4/13③	4/20①	4/20②	4/20③
1163	松本 美奈	質問力を磨く[入門編] ～脱・思考停止～★		土	A	6/15①	6/15②	6/15③	6/22①	6/22②	6/22③
1212	鈴木 守	身体知の実践～ソマティックな人間観に依拠して～		土	A	11/9①	11/9②	11/9③	11/16①	11/16②	11/16③
1222	山岡 三治	グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服 ～ローマ・カトリック教会の世界伝道の試行錯誤に学ぶ～		土	A	10/5①	10/5②	10/5③	10/19①	10/19②	10/19③
1223	寺田 勇文	アジアの宗教と社会	秋	土	A	10/12①	10/12②	10/12③	10/19①	10/19②	10/19③
1235	ユー・アンジェラ	Understanding the World in the Language of International Liberal Arts		土	B	10/12①	10/12②	10/26①	10/26②	11/9①	11/9②
1244	出口 真紀子	マジョリティ側からダイバーシティを考える: 特権と立場の心理学		土	A	10/26①	10/26②	10/26③	11/9①	11/9②	11/9③
1245	増山 美佳	人的資本経営と企業価値向上について～人材の価値を最大限に引き出す～		土	D	12/7①	12/7②	12/7③	12/14①	12/14②	12/14③
1261	松本 美奈	質問力を磨く[入門編] ～脱・思考停止～		土	A	11/16①	11/16②	11/16③	11/23①	11/23②	11/23③
1262	森下 哲朗 (島田久仁彦)	ロールプレイで学ぶグローバル交渉力		土	A	12/14①	12/14②	12/14③	12/21①	12/21②	12/21③

■ スペシャリスト養成講座 全8コマ (平日) 夜 18:30-20:00 (土曜) A 10:00-11:30 12:30-14:00 14:15-15:45 E 9:00-10:30 10:45-12:15 13:15-14:45 15:00-16:30 F 10:00-11:30 11:45-13:15 14:15-15:45 16:00-17:30

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
2101	森下 哲朗 (島田久仁彦)	交渉力を磨く～人を動かす交渉・コミュニケーション術: “納得”の導き方～	春	土	A	5/11①	5/11②	5/11③	5/18①	5/18②	5/18③	5/25①	5/25②
2102	久田 満	傾聴力を磨く～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～		金	夜	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	6/28
2105	深澤 佑介	人工知能: 基礎と応用～人間と人工知能の相乗効果を引き出すために～		木	夜	4/18	4/25	5/9	5/16	5/23	6/6	6/13	6/20
2201	西澤 茂	国際会計～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～	秋	木	夜	10/10	10/17	10/24	10/31	11/7	11/14	11/21	11/28
2202	織 朱實	コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト: コロナ以降SDG達成に向け世界はどのように変化し、企業は変革に向けてどのように対応していけばよいのか		土	E	10/5①	10/5②	10/5③	10/5④	10/19①	10/19②	10/19③	10/19④
2203	百瀬 公朗	データサイエンスの実践ー資産化するデータと技術ー		水	夜	10/9	10/23	11/6	11/20	12/4	12/18	1/8	1/22
2204	私市 正年	中東問題の理解－マイノリティー集団から考える共存、多様性と排除、分裂		水	夜	10/16	10/23	10/30	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4
2205	松本 美奈	質問力を磨く[実践編] ～脱・思考停止～		土	F	2/22①	2/22②	2/22③	2/22④	3/1①	3/1②	3/1③	3/1④
2206	川村 信三	世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く ～教皇庁の歴史と外交から～		金	夜	10/11	10/25	11/8	11/22	12/6	12/20	1/10	1/24

■ プレ講座 夜 18:30-20:00

講座番号	コーディネーター	講座名	開講期	曜日	時間帯		第1回	第2回	※第1回・第2回は 同内容
5101	山本 誠一郎	ビジネススキルを磨くアート思考	春	水／土	[水] 夜	[土] 14:15-15:45	5/29	6/15	

※2024年2月時点での開講スケジュールとなります。今後、やむをえず変更になる場合があります。

ARCHIVES

2023年度開講講座

受講者の声

受講者アンケート回答から抜粋

アフリカの智に学ぶ～サハラ以南アフリカの慣習や文化から～／永井 敦子・山崎 瑛莉

日常業務ではほぼ関わることのないアフリカという環境をベースに、幅広い影響について考えることができた、とても良い機会でした。日本における過去から現在への発展との関係性を考えるきっかけにもなりました。

伝統文化から見た日本／長尾 直茂

日本文化についての考察ですが、リベラルアーツとしてまさにビジネスパーソンに必要な素養と改めて認識できました。個々人の関心や興味に従って発展的に調べる道筋も示され、非常に有意義な講座と思いました。

グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服～ローマ・カトリック教会の世界伝道の試行錯誤に学ぶ～／山岡 三治

カトリックの布教という一つのテーマをもとに、地域で理解を深めていく6回形式は大変興味深いものだった。グローバル企業の海外拠点にはクリスチャンも多く、教養として持っておくべき知識であった。

21世紀における「グローカリズム」と持続可能性：日本列島におけるレジリエンス及びダイナミックな順応的管理の可能性を探る／まくだなとど あん

現代社会の重要な課題がニュースとは違った切り口で取り上げられており、日常の業務では知ることのない世界に触れることができて有意義だった。受講者の多様な意見に接することができたのも大きな収穫だった。

グローバルリスクと戦略的コミュニケーション／国枝 智樹

業務上、グローバルにおける戦略的コミュニケーションの重要性が高まる中、体系的な理解と最新の企業動向や課題点が整理されていました。企業広報に従事している方には是非受講していただきたい内容でした。

ジェンダー・セクシュアリティの社会学入門／石井 由香理

社会学を紐解くことで、今後企業の軸にもなっていく「多様性」について考えることができた。さまざまな業種、幅広い年代の受講者と意見交換することができたのも有意義だった。

人・自然・社会の持続可能性とインテグラルエコロジー／吉川 まみ

一時的な知識を身につける講座ではなく、6回の講義全体で人間としてのあり方を問う講座でした。資本主義が考えるSDGsとは違う視点や立ち位置の考え方を学ぶことができ、視野が広がりました。

身体知の実践～ソマティックな人間観に依拠して～／鈴木 守

メンタルに着目した書籍などがあり、メンタルトレーニングも一般に周知されているところですが、身体知という切り口で自分を見つめ直す機会には巷になく、大変参考になりました。

グローバル・ヒストリーズ：世界のつながりを紐解く歴史観／飯島 真里子

過去の歴史から現在の課題を読み解く力を養うことができ、新しい視点で物事を考える機会を得ることができた。社会人になると実学が求められがちだが、特にリーダー的な立場にある人には教養が求められると感じており、こういった講座はそれにふさわしい。

アジア・太平洋戦争(1941-45年)をふりかえる／寺田 勇文

先の戦争の全体像を知る上で欠かせない、しかし教えてもらえない歴史を、これだけの密度で集中して学べる機会は大変貴重だった。

越境する日本文学と美術／ユー・アンジェラ

日常業務や自己研鑽の中で学ぶ機会の少ない分野でしたので、気づきや学びにつながりました。国内外から日本を見る、という視点はグローバル時代に必要なことであり、その観点から本講座の趣旨は有意に思えます。(2022-2023年度)

海と安全保障／都留 康子

普段からニュースで目にする内容について、背景から深く理解することができた。受講生と各講師がコミュニケーションを取り易いよう、コーディネーターの先生がよく工夫してくださった。

病とともに「生きる」を支える／横山 恭子

患者だけでなく、病を患った人の関係者(配偶者、親、子供など)も支援を必要としているということ、相手の気持ちに寄り添った社会づくりが必要であることを考えるきっかけとなった。

SDGsとグローバル化の哲学／大橋 容一郎

SDGsを哲学の視点から考えるきっかけは通常では得られず、有益な観点を身につけることができました。日頃の業務にはない視点・観点で、世の中の検討ができたと感じました。

仕事に生かす哲学的対話～深く豊かな思考のために／寺田 俊郎

当たり前と思っていることに対して、多様な価値観や見方の違いにより、全然違う解があり得ることに気付ける他に、他の人の意見を理解する能力を向上させる効果もあると考えるため。

世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く～教皇庁の歴史と外交から～／川村 信三

バチカンのことを、現役で関わっている人たちに直接教えてもらえる。他の講義や書物では得られない講義内容である。

イスラームをどう理解するか?－原理・原則と多様性を考える／私市 正年

社内でD&Iを担当し、多様な従業員と接する中で、自身の宗教に関する知識のなさはリスクにもなりうると感じています。自分一人ですべてよりも効率的に、実務に必要な知識を得られました。

アフリカのいまを知る～ステレオタイプを越えて～／矢澤 達宏

アフリカの社会状況を知り、ビジネスなどで自ら考え、活かす視点をいただけました。第一線の講師の方から話を聞くことで沢山の気づきがあり、実際に現地へ行き体験した話は、非常に説得力がありました。(2022-2023年度)

Environmental Issues in the 21st Century : A Case Study Approach to Practical Learning／まくだなとど あん

英語での講義という内容に惹かれて受講した。毎回最後に講師へ意見を表明する時間があり、そこで英語で話をするために真剣に講義を聞いた。英語で聞いて理解し、発言するという中で貴重な経験をした。また機会があれば参加したい。

アサーション入門～自己尊重の社会に向けて～／久田 満

自分が普段からどうあれば生きやすくなるのか、仕事を円滑に進められるのか、必要なことを意識できるようになった。完璧にならなくてもよいと認識でき、考え方が変化するきっかけになった。すべての社会人に必要な見方・考え方だと感じた。

社会課題を起点とするイノベーションの興し方～当該分野の国際規格の世界動向も学びながら～／西口 尚宏

社会課題を深堀りしていき最終的にビジネスモデルにつなげるという一連の流れを体験でき、その過程で大事な視点など多くの気づきを得た。

マジョリティ側からダイバーシティを考える：特権と立場の心理学／出口 真紀子

学べば学ぶほど、この分野に関しては必要性が高いと感じる。普段気づかないことに気づかされる。そして、それは生きていくうえで非常に重要な内容である。企業人というよりも、人として重要な学びである。

先進技術と基礎科学～意思決定の依拠を考察する～／大槻 東巳

社会進歩の背景となる科学技術の発展状況を、先端におられる講師陣から、思いを込めてお伝えいただいた。一社会人として今後何を実現していくか、思いをはせるよい時間でした。

イノベーションを推進するソシオ・エコシステム／矢野 誠

本講座は市場の質に関する内容であり、産業革命など過去の世界的な市場をマクロ視点で分析したお話を聞き、日本の市場の特性について議論することで、その法則性を自分の業務にも当てはめて考えることができた。

質問力を磨く【入門編】～脱・思考停止～／松本 美奈

アウトプット重視の授業のため、非常に勉強になった。自分以外の視点から物事を考えたり、フレームワークを使用して思考を掘り下げたりすることは、日ごろなかなかできないため、多くの人に経験してもらいたい。

質問力を磨く【実践編】～脱・思考停止～／松本 美奈

問うことは対話の入り口、考え続ければ瞬時に考えられる、問うことができる、というのを体感できるグループワークでした。座学より満足度がありました。

データサイエンスの実践－データを消費するのではなく資産化する－／百瀬 公朗

データサイエンス領域は、関係する仕事や業務部門についていないと中々取っ付きにくい学問だと思いますが、実際に受講してみても、全ての業務領域の方に役立つ・活かせる内容だったと感じました。(2022年度)

歴史の理論と文明論－歴史に学ぶ、歴史から考える「今」という時代と社会－／私市 正年

現在および未来を考えていく上で、あらためてある視点をもって歴史に目を向けることは非常に有意義だと実感できた。実際、これからの地球を考えるヒントを得られたところがある。またここで得た教養は人生を豊かにし、意味のある語り合いを生むものであると感じた。

障害者の心理学～差別や偏見のない共生社会の実現に向けて～／久田 満

障害者は周りにたくさんいて、自分もいつか障害者になる。そういう事実をつきつけられた。また、障害者に関わらず、偏見や差別はいろいろなところに存在し、自分も分野によっては差別される可能性もあり、他人事ではないことに気づかされた。

ビッグデータ利活用：基礎と応用／安納 住子

6名の実践家の事例を聞いて新たな考え方を知ることができ、視野が広がった。老若男女関係なく今働いている人にとって必要な知識・情報だと思う。次回もぜひ受講したい。

デジタル駆動社会とBeyond 6G／矢入 郁子

ビジネスの場面を離れて、学術的な観点からの動向を把握できた。5年後、10年後の動向予測ができ、新しい発見もあり、チャレンジする方向性を定めることができた。

交渉学入門：より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル／森下 哲朗

ロールプレイやディスカッションにより実践する時間もあったため、インプットした講義内容を腹落ちして習得でき、実務での利用イメージがつかみやすかった。

交渉力を磨く～人を動かす交渉・コミュニケーション術：”納得”の導き方～／森下 哲朗

仕事・プライベートにかかわらず、社会で生きていく上で避けて通れない「交渉」について、体系的に学べた。講師が非常に経験豊かで、その経験談を織りまぜながらの講義が、受講する側の視野を広げてくれた。

国際会計～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～／西澤 茂

会計情報から企業の現状を読み解くだけでなく、グローバル視点での経済動向の解説もあり、リベラルアーツとして有意義な内容だった。個別企業の研修では実現できないようなゲストスピーカーによる講演は、視野を広げるきっかけになった。

サステナビリティ社会における企業の環境戦略～法、政策、最前線の現場から／北村 喜宣

昨今、企業においてESGの観点から経営することが求められる。環境対策に関して本質的なところや経営者目線での必要な知識を理解しきれていない社内人材は多いと思います。本講座は注目のトピックを丁寧に解説してくれているので、非常に有用だと感じたからです。(2022年度)

現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論／齊藤 玉緒

専門性の高い講師の方々から、正確かつ最新の情報をリアルに学ぶことができた。単に知識を得るだけでなく、その情報を今後どのように活かしていくかについて考えを巡らせるセッションだった。

変動する地球環境の中で生き残りをかけて：食料と環境の科学概論／神澤 信行・藤原 誠

広い範囲の内容を、まとめてわかりやすく説明していただいた。気候と食については、アンテナを張って定期的に情報収集していくしかないが、取り残すことがないように、情報収集と発信を継続できるようにしていきたい。

グローバルコミュニケーション・リテラシー～グローバルメディアの変容と相互理解／音 好宏

教養を高めるため、あえて専門外の講座を選びましたが、専門家による実例を用いての講義は、毎回1時間半があっという間に終わってしまうくらい充実していました。業務に直接関係あるなしにかかわらず、私自身の成長に大きく役立つと感じています。

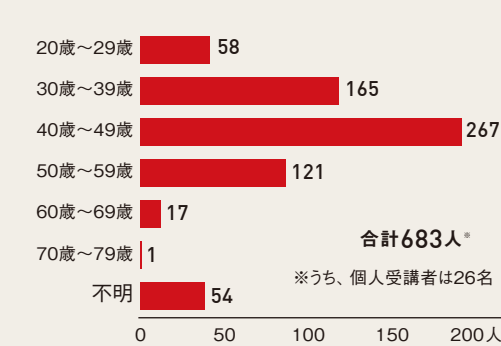
傾聴力を磨く～部下のため、部署のため、そして会社全体のために～／久田 満

傾聴講座は社内研修でもありましたが、内容の濃さが全く違いました。傾聴の理論と経験を深く備えた大学教授から教わる実践形式のこの講座は、納得感も体得の速さも圧倒的と感じました。

コロナ以降の環境をめぐる企業のパラダイムシフト：コロナ以降企業は変革に向けてどのように対応していくのか／織 実貴

身近にある環境問題について、改善するための取り組みを具体的な課題として捉えることができた。個人でできることはもちろん、周囲にも地球の現状を訴え、今できることから行っていくと改めて強く思った。

受講者内訳



講座を受講していかがでしたか？

